

文化遺産国際協力コンソーシアム 議事録

議題	第1回 西アジア 分科会	日時	2006/8/9 15:30 - 17:15
参加者 (敬称略)	前田、入澤、上岡(分科会)、 亀井、勝平、樋口(文化庁)、篠塚、堀田、守山、細川(外務省)、 鈴木、永井、山内、山内和也(文化財研究所) 青木、田代、豊島、延近 (事務局)	場所	東京文化財研究所 地下会議室
資料	・議事次第 ・バーミヤーン報告資料1, 2, 3 ・第1回企画分科会議事録 ・西アジア分科会 委員一覧	・文化遺産国際協力コンソーシアム設立趣意書 ・文化遺産国際協力コンソーシアム規約 ・文化遺産国際協力コンソーシアム・パンフレット ・「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」パンフレット ・入会のご案内/入会申込書	記録
			事務局

■ 「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」と文化遺産国際協力コンソーシアムについての説明(青木)

■ バーミヤーンにおける保存・修復事業の現状報告

文化財研究所 バーミヤーン遺跡保存事業 第6次ミッション 成果の報告 (文化遺産国際協力センター 山内)
 壁画の顔料・煤状黒色物質、クリーニングに関する補足説明 (文化遺産国際協力センター長 青木)

質疑応答 :

今回の修復作業には毒性の高いブチルアミンを使用しているとのことだが、作業上の考慮点はどのようなものがあるか。

→ 毒性のある物なので作業時間を短く区切り、休憩を入れている。また、マスクを頻繁に交換したり、扇風機を持ち込んで換気をしながら作業をしている。

今後保存対象として考えている石窟は、N窟以外にあるのか？

→ I窟(日射、風による風化)、K窟(鳥類の糞による汚れ)などがあげられる。いずれも異なる要因による劣化だが、中には共通点もあるだろうから、そこから普遍的な保存修復方法も模索していきたい。

保存対象とした石窟の優先順位はどのようになっているのか。

→ 典型的な劣化が見られる石窟であり、かつ美術的な価値の高いものの中で優先順位を定めた。
 (なおK窟もその中の1つであるが)K窟の壁画は、現在流出文化財として日本に保管されていることから、日本で基本的な材質技法などの調査を行っている。この結果を現地における保存・修復に活用できるという利点もある。

今回の発掘対象エリアは、遺跡保護区域にはいるのか？ この調査結果を受けて

遺構が発見されなかった部分については遺跡保護区域からはずす予定か？

→ バーミヤーンの場合、現地での十分な考古学的な調査を経ずに、地形を見て応急的に遺跡の保護区域を策定した経緯がある。現在、科学的な証拠に基づいてその範囲を定めることが求められている。調査結果によっては遺跡保護区域が当初考えていたものよりも狭めることが可能ならば現地でのインフラ整備などの地域開発に柔軟性をもたせられる。

バーミヤーンは、西アジアの文化財として、どのような観点からその美術的・学術的価値を評価できるのか？

→ 中央アジアとインドをつなぐ重要な遺跡であるし、大仏・壁画の存在も貴重である。また、これはユーラシア大陸をこえ、日本へつながる仏教遺跡ということで、日本にとっても重要な遺跡である。また、現在はアフガニスタンにおいて、シンボリックな遺跡にもなっている。

バーミヤーン遺跡が最西端に位置する仏教遺跡なのか。

→ バーミヤーンの更に西方100kmの地点での出現例はある。しかし、イランで調査を行っている京都大学のチームの調査地では、仏教遺跡の出土例はない。

他に大仏が存在するのか？

→ アフガニスタンにも木製の仏像があったというが、今はない。

N(a) からはいろいろな歴史的な発見がまだまだ期待される。またこれは、保存技術開発を促す現場でもある。

玄奘の話にでてくる有名な遺跡、また仏教的価値も高く、バミヤーンの重要性は高い。また、日本とアフガニスタン関係の歴史からも重要な遺跡だと思う。

■ 企画分科会報告

(企画分科会での会議内容、議決事項の説明)

討議：

どういった人々が会員の対象となるのかということがかかされていない。今後どのように進めていくのか。

→ 一般というよりは、専門家で、実際に現場に関わっている人を予想しているが、今後議論していかなければならない。

西アジア考古学会などで声をかけることも出来るだろう。ただし、どのぐらいが参加する分らない。

上限として、どの程度の会員数の受付を考えているのか？

→ 現在は、会費が無料なので、興味を持っている人だけでも、500人ほどは集まるだろう。

この規模になった場合どのように運営していくのかについて、今後検討していかなければならない。

西アジア考古学会や東南アジア考古学会では、研究だけでなく保存修復まで手がけている人はどのぐらいいるのか。

→ 正確には把握できてはいない。

現在保存修復学会だけでも1000人ほどおり、科研のテーマも近年文化財保存関係が多く

なっている。このことから、コンソーシアムへの会員は、おそらく500人ほどは集まるのではないだろうか。

保存修復まで手がけている人はあまり多くない。

■ 西アジア地域における国際協力案件について

討議：

現在西アジアでは、アフガニスタンが大きな話題となっているが、それ以外にもいろいろな案件が出そうである。

ぜひこの場で情報共有をし、どのような協力の可能性があるのか、考えていきたいと思う

現在、外務省、文化庁の方で、緊急な問題として考えているものはあるのか？

→ バミヤーンの第2フェーズがもうすぐ終了するので、第3フェーズが今一番大きな問題だと考えている。

現在のところ差し迫った問題はないので、そのまま続けていく。ユネスコ日本信託基金による、バグダード博物館等のイラク支援については、当初の支援額が大きく、完結していないプロジェクトがたくさんあるので、新規のプロジェクトは考えていない。これまでにやってきたことを地道に定着させていく。

今、まさに話しているような情報を収集していかなければならない。現状では、誰も全容を把握していない。

こうした情報を集めるためにも、コンソーシアムに参加者を集めていきたい。また、参加者から提供してもらった情報を、他の参加者のみなさんに還元していきたい。まさに、コンソーシアムのデータベースにアクセスすれば、すぐに情報がわかる、という仕組みを作り上げたい。

たとえば、科研費では、日本隊による緊急発掘案件が多く登録されている。こういう情報もDBIに入れていきたい。

そして、単に発掘だけで終わるのでなく、その後の保存まで結びつけて考えていきたい。

どこがどのような形で文化財保存修復に関わっているのか。また、その資金はどこがどのような形でだしているのか、という情報を集めておくべきであろう。例えば、日本学術振興会もいろいろな派遣や招聘に資金を提供していたりしており、様々な人に声をかけるべきであろう。

現在コンソーシアムに関わっているのは代表的な人々ばかりだが、その他には財団や一般商社、

宗教法人など、いろいろな形で文化遺産国際協力に関わっている。

さらに、マスコミとも、どう連携していくのか、考えていくべきだ。

コンソーシアム側では、現在の情報収集はどうなっているのか？

→ データ収集は、来年初からスタートする予定である。今は、基本構想を検討している最中である。

現在、日本政府側も動いている状態である。そのプロセスの中で文化遺産国際協力コンソーシアムが成立したという経緯がある。出発点には皆さんの力を借り、全員できちんと力をそそいでいかなければならない。

■ 今後の分科会の進め方について

討議：

企画分科会が2ヶ月に一度のペースで開催される。これにあわせて開催するのが望ましいと考えている。
まず、出だしはこまめにやり、様子が見えてきたところで、柔軟に対応するという形にしたいと考えています。
もちろん、緊急の案件が発生すれば、臨機応変に動く。

アフガニスタンには、まだ国際協力の対象となる遺跡があるのか？

→ 現状では、今日話題に出てきたバーミヤーン、バーミヤーン西部、カーブル郊外の遺跡保存の三つである。しかし、
仏教遺跡については、日本の調査隊との歴史的かかわりも深いし、その保存については、積極的に関わって
いくのが望ましい。

現状では、上記案件は3つの案件がバラバラに動いているようだが、連携の方向で考えていけるか。

→ もちろん、連携をしていくことが望ましい。特に、セキュリティの点では是非そうあるべきである。
しかし、それぞれに調査内容も、出資元も異なっている。
だから、たとえば、仏教が関わる、などのテーマの下で連携するという方向で考えていきたい。

連携して動けるところは、極力連携する形でぜひ進めていってもらいたい。出来れば、次回の分科会では、
アフガニスタンを例にとり、それぞれのアフガニスタンでの研究紹介を行った上で、
連携・協業体制を模索するような議題を取り上げてはどうか。

アフガニスタンで連携のモデルを作り上げることが出来れば、これをベースとして、他地域への応用も考えられるだろう。
また研究の領域が違った人がこの分科会で集まり、日本の旗がどこに立っているのかマッピング出来れば良いのでは。

本日の会議では、次回につながる重要な議題も出てきた。次回の分科会で更なる議論を重ねていきたい。

決議事項：

- ・ 当面の間、西アジア分科会は2ヶ月に1度の割合で、委員の予定を調整しながら開催する
- ・ 次回分科会では、アフガニスタンで行われているプロジェクトの協業の可能性について検討を進めていく

次回は未定
(追ってご連絡いたします)